

アイスホッケー部

アイスホッケー部は1959年に本学の前身である、武蔵工業大学の学生有志によって結成されました。現在は選手12名、マネージャー4名が在籍。抜群のチームワークで日々の活動に取り組んでいます。

限られたリンクと時間のなかで 部員一丸となって効率よく氷上練習

60年以上の長い歴史があるアイスホッケー部。現在はプレーヤーである12名の選手が在籍していますが、例年、約8割の新入部員が未経験者だそうです。部長兼主将の秋草 匠君は次のように話します。「僕も未経験で大学からアイスホッケーを始めました。ただスケートを滑ったことがない部員でも、1、2か月の練習でスケートリンクを走れるようになり、半年ほどで試合にも出られるようになります」。

練習は週2回の1日2部制。昼に世田谷キャンパス近くの多摩川沿いをランニング、本学ジムで筋力強化など陸上トレーニングを行い、夜に明治神宮アイスアリーナなどのスケートリンクで氷上トレーニングを行います。その夜のリンクでの練習時間を聞いてびっくり。小学3年からアイスホッケーを続ける五十川 秀太君によると、「夜練習は23時スタートなど、深夜にかけて行います。これには理由があり、都内には練習がで



試合後、選手とマネージャーが揃って記念撮影



工学部
建築学科 3年
五十川 秀太君

メディア情報学部
情報システム学科
1年・マネージャー

大倉 萌果さん

知識工学部
経営システム工学科
3年・マネージャー

金子 真季さん

工学部
電気電子工学科
4年・部長

秋草 匠君



合宿の練習開始前に、円陣を組んで気合を入れます

きるリンクが3つしかなく、日中と夜の一般営業時間帯は、小中高生のフィギュアスケート等の練習に割いていることが多く、時間的制約が少ない大学生、社会人は深夜の練習が普通なんです。荷物が多く、電車もなくなるため、夜間の氷上練習時は部員が協力して車を用意し、自宅まで送迎を行うそうです。

氷上練習にはマネージャーも同行します。体験入部の練習を見て、アイスホッケーの迫力、スピードに魅了された金子真季さんは、「マネージャーは選手がプレーを見直すためのトレーニング撮影、練習中のタイムキーパーなどを務め、効率よく練習するための仕事が多くあります。怪我人の手当も大事な仕事ですし、私たちが深夜の氷上練習に同行するのも、ごく当たり前のことですね」と語ります。1年生のマネージャー、大倉萌果さんは、「はじめは驚きましたが、連携して深夜に練習を行う先輩達がかっこよかった。私も練習の輪の中に入れてもらい、楽しくてすぐに慣れました」。